

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
2022年度第1回学校関係者評価委員会

日時 2022年4月15日(金) 16:30~17:25

委員 品濃町内会関係者様、西横浜国際病院関係者様、東戸塚記念病院関係者様、  
亀田森の里病院関係者様、学校長、教務部部长、次長2名、ほか教職員7名

内容

I. 校長挨拶

本日は、本年度第1回の学校関係者評価委員会にご出席いただきまして、ありがとうございます。コロナの終息の目途は立ちませんが、本校では対面授業がかなり戻ってまいりました。まだまだ予断を許さないところではありますが、本日は本校の教育の目標や学校運営、教育活動等に外部の先生方のご意見をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

II. 自己評価表(全て資料1に基づき報告)

資料1に、2021年度の後期達成状況と2022年度に取り組むべき課題等について示しました。

1. 教育理念・目標(瀬古教務部部长)

資料1参照

2. 学校運営(瀬古教務部部长)

資料1参照

3. 教育活動

【シラバス・カリキュラム(水島次長)】

資料1参照

【教育力向上(田中課長補佐)】

- ・進研アドの基礎力リサーチでは、1・2年生を対象にした試験を行っています。
- ・内部研修会は、臨床心理士を非常勤としてお招きし、実施予定です。

【臨床実習(瀬戸山主任)】※当日、秋本課長補佐が代読

資料1参照

【情報公開(水島次長)】

資料1参照

#### 4. 教育成果

##### 【資格・卒業研究（田中課長補佐）】

- ・障がい者スポーツ大会が2年間ほとんど行われていなかったため、今年度も体力測定会を実施予定です。

##### 【国家試験・卒業試験（中留主任補佐）】

- ・国家試験対策教材の業者は、オンラインでの業者となります。
- ・横リハ独自の国家試験対策教材は、オンラインの教材になります。

##### 【臨床実習、留年・退学者防止、卒業生（中村次長・水島次長）】

- ・理学療法学科 1・2 年次の臨床実習指導者会議は未実施でしたが、実習内容を理解してもらう必要があるため、今年度はオンデマンドで実施する流れとなっています。

#### 5. 学生支援

##### 【社会性（田中課長補佐）】

資料 1 参照

##### 【行事（机課長補佐）】

資料 1 参照

##### 【個別指導（水島次長）】

資料 1 参照

##### 【健康管理・防犯、就職支援、災害対策、経済援助・活動援助（宮野課長補佐）】

- ・就職支援ですが、ぎりぎりではありますが 3 月 31 日に全員が内定を受けることができました。

#### 6. 教育環境

##### 【教室（宮野課長補佐）】

資料 1 参照

##### 【図書、設備・備品（武田主任）】

- ・図書室には、現在約 3000 冊の書籍があります。
- ・メディカルオンラインは、限られている文献のみのダウンロードとなるため、他のシステムを引き続き検討しています。

#### 7. 学生募集（宮野課長補佐）

資料 1 参照

## 8. 社会貢献

【地域貢献（宮野課長補佐）】

資料1参照

## 9. 法令等の遵守（瀬古教務部部長）

資料1参照

## IV. 質問・意見

藤井先生：COVID-19の影響もありますが、学生さんの活動や体験が2020年度に比べると少しずつできるようになったのかなという印象で聞いておりました。実習もゼロではないので、まだまだ足りないかと思いますが、進めていると感じています。今年度は、さらに進めていけたら良いのかなと思います。1点質問なのですが、一昨年と昨年にコロナ禍で実習ができないまま卒業した学生さんを学校でどのようにフォローアップされていたか、具体的に何かあればお聞かせ願いたいです。当院では、実習を経験していない学生さんが実際の患者さんに接するのは、中々難しく、そこで苦勞されている方もいました。病院としても教育はしていきますが、上手くいかなかった時のフォローアップを学校の方であれば、お聞かせいただければと思います。

中村次長：昨年度に関しては、全員が実習に行っています。しかし、毎年のことですが働けているのは気になっているところです。

水島次長：作業療法学科は、臨床実習と学内実習を半々で行いました。2021年度の卒業生については、4月1日から働きはじめたばかりなので、情報はまだ聞いていません。2020年度は、コロナの真っ只中だったため、実習に行けなかった学生の傾向を2021年に調査をしました。結果としては、就職後、数か月で辞めてしまう学生が数名おりました。学校の方で把握している学生は、フォローを行っているのですが、把握しきれない学生も数名いたと聞いています。それがコロナの影響なのかは不明ですが、やはり自分が思っていた施設とは違って、2~3ヶ月で辞めた学生が特に2020年に卒業したOT学科に4~5名いたのも事実です。今後、把握できている学生は、フォローアップをしていきたいと考えています。

重田先生：今回、新型コロナウイルスの終息の見通しが絶たない中で、実習をはじめ卒業式や謝恩会などの行事も開催できたということで、学生としても非常に良かったのではないかと思います。授業のハイブリッド化や実習施設の変更などの対応で先生方も大変だったかと思います。当院では、1年生の見学実習を昨年度から受け入れていて、最初どのように対応すべきか非常に悩んだ部分もありました。しかし、本年度オンデマンドで指導者会議が開催されるということで、そちらに参加させていただき、しっかりと対応できるように取り組んでまいりたいと思います。

松田 様：学生たちが坂を上がって通学しているのを見て、通常通りに戻っていて良かったと地域の者として喜ばしく思っています。また、3月のICONのイベントですが、岩崎学園ならではの7校の力や学生にとって素晴らしい機会となっていると思いながら拝見をしました。今年度は、リアルで見たいと思っています。それと、地域の者もつなぐカフェや敬老会などに横リハの学生が来ていただいているので、今年度こそは再開できたらなと思っております。また、ご協力をお願いします。それと、品濃小学校の防災拠点の運営委員をしているのですが、災害時に学生がいるというのは心強いことです。ぜひとも、東品濃もですが防災拠点で繋がれたらと思っております。あつてはならないことではありますが、最近地震も頻繁に起きておりますので、地域の若い力がほしいと思っています。東戸塚



は、若手は外に働きに出てしまっていて、東戸塚にいないことが多いので、学生の方たちが力になると思います。ぜひとも、よろしくお願いします。

戸羽先生：病院に勤めていて1点、今後どういう風にしていったら良いかなと悩んでいるのが実習の形態が以前の実習とは異なり、見せる実習になってきていて一緒に考えるという感じになっているところです。学生の勉強に対する探究心などが場面的に中々引き出すことができず、非常に苦慮しています。もし、先生方でこのような形で誘導すると学生の反応が上がるなどのアドバイスや助言があるとありがたいです。また、どうしても同時進行で色々な学生を受け入れざるおえないというのが事実としてあり、指導する際に十分に行き届いているのか、今後の就業にあたって意欲をかきたてることができているのか非常に不安に思っています。なぜなら、1年目で離職をしてしまう職員の発生がここ数年でみられていて、実習でおもしろさを伝えていかないと中々難しいのではないかと危惧しているところです。学校の先生方のご助言があれば、ぜひ教えていただきたいです。

秋本課長補佐：精神分野を担当しているのですが、今の学生さんは自信のない学生さんが非常に多く、成功体験もなく色々な経験が足りておりません。親御さんに守られて生きてきた学生が多いので、やはり自分で成功させたという喜びを持っていません。ただ、現場では表面的にはでてこないのですが、実習から帰ってくると「患者さんに褒めてもらえた」だとか先生方に「ここが良かった」と言っていたことが自信になって、引き続きこの分野に進みたいと思う学生がたくさんいます。逆に、怒られたり、否定されるとその分野には進みたくないとなってしまいます。その結果、急に方向転換してしまう学生がとても多くいます。先生方や患者さんに褒めてもらった学生の方が、継続してやっていけるのかなと感じています。学生は、考える力も弱く知識も足りていません。しかし、学内教育でも一生懸命感じさせたり、色々な知識を与えたりと頑張っています。どうぞご指導の方を引き続きよろしくお願いします。

中村次長：どうやって自己学習を促すか、それがやはり今回の実習形態での肝と思います。実習の中で、おもしろさを見つけるきっかけを実習施設で与えてもらった上で、そこから広げるのは学生にかかっていると思います。それを実習で行った時に、学生たちが自ら進んで勉強しようとするか、しかかけを3年生の授業のセミナーと総合演習の中で一昨年からすすめています。そこで持った印象なのですが、例えば「人工股関節」というテーマで自己学習を進めさせても中々進みません。ただ、セミナーを担当している中留主任補佐からもこの後、話があると思いますが、「このことに関して、この本から少しまとめてみよう」というと一気に進みます。なので、課題から何かを見つけるというスキルはとても低いので、それは学校側が実習に出す前に仕上げていかなければならないのですが、やってほしいことを具体的に提示すると案外課題が一気に進んでいくという感じはしています。

中留主任補佐：セミナーを担当させていただいていますが、授業の目的としては、実習を自分で充実させるということを引き続き、伝えていきたいと思っています。先生方がどのように指導するように研修を受けられているかだとか、先生方にも制約があるということや学生に伝えた上で、どのように動いたら良いかや4~5年後、指導者になっていく上でどのようにすべきかという話もしながら、より良い状態で実習にいけるよう引き続き頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### V. 次回の会議について

第2回の会議開催についてですが、2022年10月21日(金)16:30に開催する方向で調整させていただきたいと思っております。ご案内は、1か月前位にさせていただきますので、ご参加の方をよろしくお願いいたします。また、ハイブリッドな形にはなると思っておりますので、来校かオンラインどちらの参加形態でも大丈夫です。

以上

作成：植竹